

改修の効果 ※例えばこのような効果が得られます 数値は参考値です

あなたの窓の改修前の窓の熱貫流率は

4.0

(W/m²・K) ですが

改修後の窓の熱貫流率は

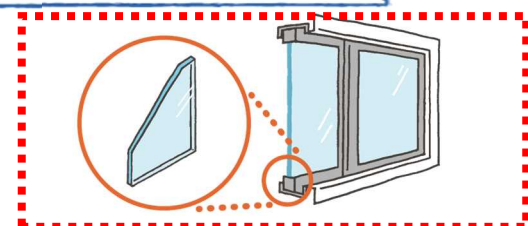
1.9

(W/m²・K)

まで向上します!!

※ 熱貫流率とは、室内側と室外側の温度差を1℃とした時、窓ガラス1m²に対して、1秒間に通過する熱量のことをいいます。この熱貫流率の値が低いほど高い断熱性能を示します。

●改修前の窓（アルミ+単板）



熱貫流率

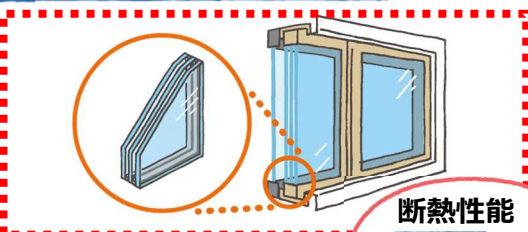
4.0

(W/m²・K)



交換

●改修後の窓（樹脂等+複層）



熱貫流率

1.9

(W/m²・K)

断熱性能UP!

断熱性能

2.1 倍

に向上

Low-E複層ガラスの場合の使い方

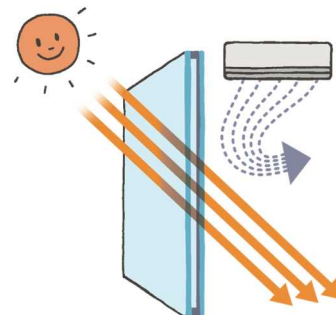
Low-E複層ガラスは二つのタイプを条件に合わせて使い分けることで、更に大きな省エネ効果を発揮できます。

※ Low-E複層ガラスとは、高断熱の複層ガラスにLow-E金属膜をコーティングすることで、より断熱性能を高めたガラスのことです。

リビング

の窓には

日射取得型



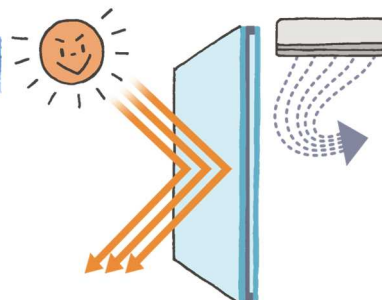
日差しをほどよく取り入れる「日射取得型」は、冬の低い位置の太陽から日差しを取り入れて室内を温めることができます。

太陽の高度が高くなる夏に日差しの量が多すぎる場合には、軒やひさしをつけることで、太陽の直射日光を防ぐこともできます。

寝室

の窓には

日射遮蔽型



高度の低い西日は軒やひさしでは遮りにくいので、夏の強い日差しをカットする「日射遮蔽型」のガラスが適しています。

窓の外側で日射を遮るすだれやシェードなどを併用するとより遮熱効果がアップします。

その他の省エネ

窓の高断熱化で省エネ効果を高めるとともに、普段の生活の中で、エアコンの使い方の見直しなどを行うと更に省エネ効果が高まります。



室内の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げましょう。



重ね着するなどして、無理のない範囲で室内温度を下げましょう。



目詰まりしたフィルターを清掃しましょう。



日中は“すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう。



窓には厚手のカーテンを掛けましょう。

先進的窓リノベ2026事業専用サイト

<https://window-renovation2026.env.go.jp/>



株式会社山内工務店

店休日：水曜日・日曜日

TEL 0120-648-647

(非通知はかかりづらい場合があります)

受付時間

9:00~17:00

※本チラシは事務局から提供された資料に基づいて窓リノベ事業者が作成したものです。